

2026 年 6 月 1 日

営業技術部 樹脂営業技術課

荒木

新規分野への挑戦 ― 歯科医療機器部品の量産を開始

皆様、日頃の営業技術課に関わる業務に御協力頂き、誠にありがとうございます。

当社では現在、自動車向け部品の生産が売上の大部分を占めていますが、新たな市場開拓の一環として、異業種分野への展開を進めています。

このたび、その取り組みの一つとして、歯科医療機器向け加飾部品の量産を開始しました。今回は、その歯科医療機器業界について少し紹介します。

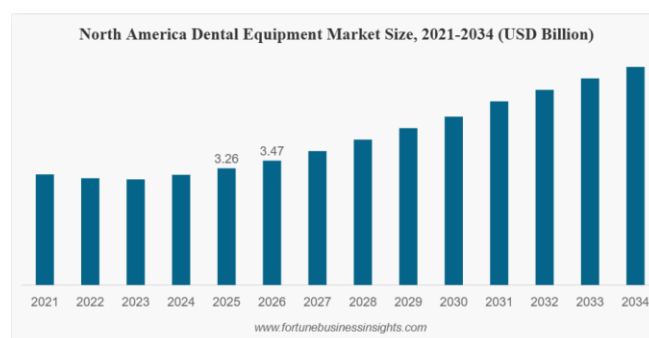
歯科医療機器とは？

歯科医療機器と聞くと馴染みが少ないかもしれませんが、歯科医院で使用されている治療台（ユニット）をはじめ、歯を削る・磨くための器具、顔周辺を撮影するレントゲン装置など、さまざまな設備機器があります。

今回、当社が受注したのは、歯科治療台のイス周辺に使用される加飾部品です。

歯科治療台は、患者が長時間座る設備であり、機能性だけでなく、患者に安心感や清潔感を与えるデザイン性も重要視されています。そのため、金属調の高級感や質感表現が可能な樹脂めっきとの親和性が高い分野と言えます。

国内の歯科医療機器市場は約 3,000 億円規模とも言われており、高齢化や予防歯科意識の高まりを背景に、今後も安定した需要が期待されています。



歯科医院はコンビニより多い？

日本国内の歯科医院数は約 6 万 6 千件と言われており、全国のコンビニエンスストア数（約 5 万 7

千件)を上回る規模となっています。

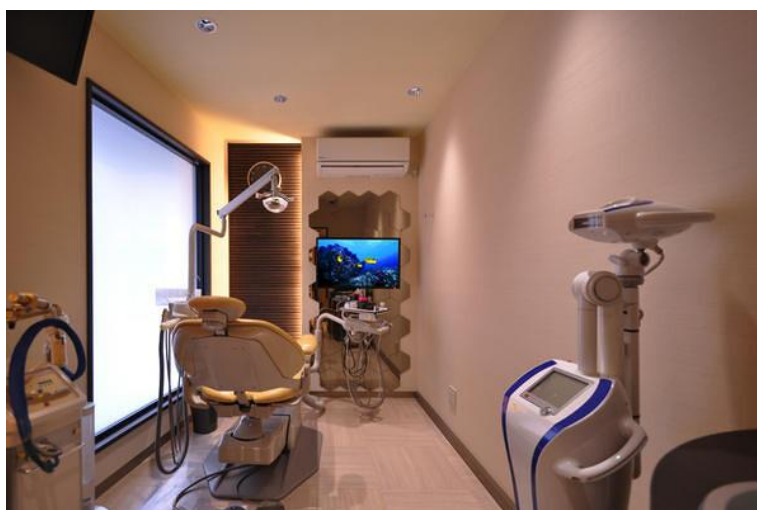
また、福山市内にも多くの歯科医院が存在しており、地域に密着した医療インフラとして重要な役割を担っています。

治療台は「設備」から「空間デザイン」へ

歯科医院では、院長先生の世代交代や医院リニューアルのタイミングで、治療設備を更新するケースも増えています。

従来は「治療機能」や「使いやすさ」が重視されていましたが、近年では患者に与える印象や医院全体のデザインコンセプトを重視する医院も増えており、スタイリッシュで高級感のある設備への関心が高まっています。

歯科治療台は1台で軽自動車1台分ほどの価格になるとも言われ、高額な設備投資の一つです。そのため、デザインや質感への要求も高く、加飾部品の価値が重要になっています。



取引先企業について

今回取引を開始したのは、「吉田精工株式会社」様です。

<https://renew.yoshidaseiko.co.jp/>

同社は歯科医療機器分野において高品質な製品づくりを行っており、歯科治療台や関連機器に使用される部品の製造を手掛けています。当社は今回、その加飾部品分野において量産対応を開始しました。

国内の主要な歯科医療ユニットメーカーには、吉田精工様のほか、株式会社モリタ、タカラベルモント株式会社、株式会社ジーシー、などがあります。



ここに当社めっき品が使
われています。

「見せる設備」への変化と、めっきの可能性

これは歯科医療機器に限った話ではありません。

これまで設備機器は「機能性」や「耐久性」が最優先でしたが、現在では「空間に調和するデザイン」や「高級感」「清潔感」といった要素も重視される時代になっています。

当社の樹脂めっき技術は、自動車部品で培った高品質な外観表現を強みとしており、今後は医療・住宅設備・家電など、自動車以外の分野においても新たな可能性が期待されています。

今回の歯科医療機器分野への参入をきっかけに、今後も「見せるための加飾」という新たな価値を提案し、新規受注の拡大につなげていきます。